

■ 目先は調整含みも依然ドルの下値は限られる…

ちょうど1週間前の12日、その“異変”は日本時間の午後2時過ぎあたりから生じ始めていた。ステーブルコイン「テザー」の価格が一時的にもドルとの連動から逸脱し、1テザー=0.94-96ドルあたりまで一気に下落するに至ったのだ。

ほどなく、テザー側が「問題なく1対1の比率でドルに交換可能」と言明し、ほぼドル・ペッグに戻ったことで事なきを得たが、その衝撃は同日のNYダウ平均を一時31200ドル台まで、ドル/円を一時127.50円まで押し下げることには作用した。

今回のテザーの価格下落には伏線がある。9日あたりから暗号資産のビットコインが大きく値を下げ始め、その余波を受けてステーブルコインの「テラUSD」の価格も連日のごとく大きな下げを演じたことが、しまいにはテザーにまで飛び火したのである。

なお、テラUSDはテザーと同じステーブルコインに位置づけられるものの、テザーとは異なる「テラUSDの価格を担保する仕組み」にはそれ自体に問題があり、今後は新たに適切な枠組みが備けられることとなりそうである。

とまれ、比較的信頼度が高いドル・ペッグの仕組みを持つテザーの価格までもが揺すぶられたのは、テラUSD価格暴落を受けた市場が「すわ、流動性バブル崩壊か」などと無用な思惑を膨らませ、全体が一時的にもリスク回避姿勢を一気に強めたことが大きいと考えられる。結果、同時に米・日株価や米10年債利回り、ドル/円、クロス円などが一時的な下げに見舞われたが、それはあくまで特殊事情に因るものであると考えておきたい。

右図に見るとおり、このときのドル/円は3月末のポジション調整時に一時的にもつけた安値から、5月9日につけた直近高値までの上昇に対する38.2%押し水準=127.50円まで下押ししたところで下げ渋っており、当面は同水準が重要な下値のメドとして意識されやすい。

昨日のNY時間から本日の東京時間にかけても、米・日株価の急落を受けてドル/円、クロス円がともに下押し動きとなったが、12日につけた直近安値を下回るほどの勢いではない。

ドル/円に関しては、128円を割り込むとすかさず買いの手が入ってくる状況でもあり、基本は短期の押し目買いが有効ということになるろう。目下は129.00円処が上値抵抗として意識されやすいと見られ、同水準をクリアに上抜けるかどうか注目しておきたい。

一方、ユーロ/ドルは今週17日にオランダ中銀のクノット総裁が発したタカ派発言で一旦大きく切り返したものの、その戻りは限られたものとなっている。やはり、上値は1.0550ドル処が重く、同水準では戻り売りが有効。仮に1.0450ドル処を下抜けてくると、1.0400ドル処が再び視野に入ってくると見る。(05月19日 09:40)

